

旧若葉台東小学校を活用した 地域活動施設の活用イメージが 示されました



旧若葉台東小学校の跡施設利用としては、「特別支援学校」をコア施設とし、付帯施設として地域利用スペースである地域活動施設を併設する提案が横浜市行政運営調整局よりなされております。

今回、その地域活動施設の活用イメージ（案）が教育委員会より示されました。

■ 活用イメージ

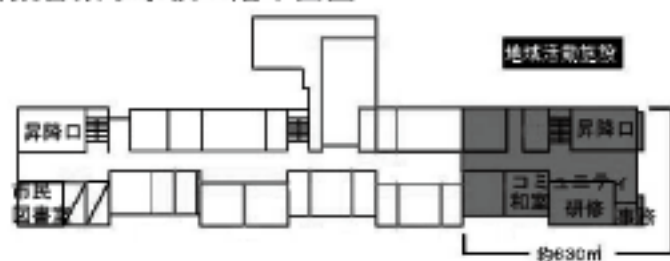
- ・ 現コミュニティハウス周辺を地域活動施設として拡張する（下図B・C部分）とともに、現昇降口を居室に改造（下図A部分）する。
- ・ この結果、地域活動施設の有効利用面積は272㎡から500㎡程度に増加する。
- ・ 児童・生徒数から必要な基準面積を算出すると、これ以上地域活動施設部分を拡大することは難しい。

第10回検討委員会の概要

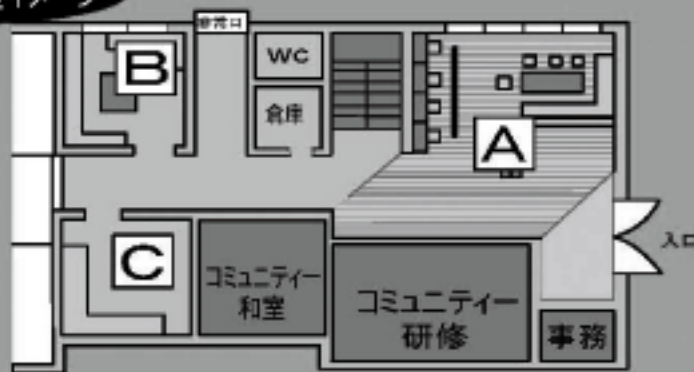
- 日時：9月29日（土）
場所：若葉台中学校Eホール
議題：1 委員長あいさつ
2 第9回検討委員会議事内容について
3 特別支援学校の整備イメージについて
4 住民説明会資料について
5 今後のスケジュールについて

地域活動施設の改修後活用イメージ（案）（教育委員会による提案）

旧若葉台東小学校 1階平面図



改修後の諸室イメージ



*ここで示した各居室の配置や面積は確定ではなく、今後、管理面や使い易さ等を考慮し、検討を行う予定です。

	利用室名	面積 (㎡)
A	図書コーナー、ミーティングスペース、相談コーナー等	180
B・C	防犯防災拠点、福祉ボランティアスペース等	128
	コミュニティハウス（和室）	64
	コミュニティハウス（研修室）	112
	コミュニティハウス（事務室）	
	倉庫	16
	トイレ	16
	合計利用可能面積	516

*上記面積は諸室として有効に利用できる面積であり、廊下等を加えると630㎡となります。

跡地活用についての概ねの方向性が整理できました

若葉台地区小中学校跡地活用について(住民説明会資料)

はじめに

若葉台地区小中学校5校の再編により生じた小中学校の跡地活用については、若葉台地区小・中学校再編検討委員会が、平成18年2月20日に横浜市教育委員会へ提出した意見書の中で、「統合により生じる土地・建物の活用については、地域で『跡地活用検討委員会』を設け検討したい」としたことを受け、若葉台地区連合自治会及び単位自治会を中心とした各団体の代表から構成される「若葉台地区小中学校跡地活用検討委員会」を設置し、平成18年11月より検討を行ってきました。

1つの地区において、3校もの学校跡地の活用について、一度に検討するという事例は、横浜市内で初めての試みであり、検討委員会の活動も試行錯誤の連続で厳しいものでした。そうした中で、真摯にまた粘り強く調整と検討を重ねた結果、このたび、跡地活用について概ねの方向性が整理できましたので、報告いたします。

これまでの経過

若葉台地区は、理想的なニュータウンの建設を目指し、昭和40年代後半より、横浜市北西部の丘陵地に新設された大規模団地ですが、小・中学校においては、数年前から児童・生徒の減少による学校の小規模化が進み、これに伴い多くの課題を抱えるようになりました。

このため、平成17年5月に「若葉台地区小・中学校再編検討委員会」を設置し、若葉台地区内の小・中学校5校の再編について8回にわたり検討を重ね、小学校については3校を1校に、また、中学校については2校を1校に統合することとなりました。

これらの統合により生じた旧若葉台東小学校、旧若葉台西小学校、旧若葉台西中学校3校の跡地を有効に活用するため、平成18年11月、若葉台地区連合自治会及び単位自治会を中心とした各団体の代表から構成される「若葉台地区小中学校跡地活用検討委員会」(以下「検討委員会」とする。)を設置し、将来の若葉台のまちづくり構想を踏まえながら、10回にわたって検討を続けてまいりました。

検討委員会では、跡地活用に関する住民アンケートを実施し、広く地域住民からの意見を募るとともに、検討委員会での議論をより深めるため、「暫定利用」・「スポーツ」・「教育文化」・「福祉」・「安全・安心」・「行政提案検討」の6つの分野からなる小委員会を設置し、延べ25回にわたって活発な議論を重ね、分野ごとに住民要望のとりまとめを行いました。

また、あわせて、横浜市からも跡地活用について提案がなされましたが、それらが若葉台地区及び旭区全体にふさわしいものかどうか、検討を重ねてきました。

これらの結果、検討委員会として、跡地活用についての3校活用コンセプト(考え方)及びコア(中心)施設、並びに各施設に必要なと考える機能を次のように整理しました。

3校の跡地活用のコンセプト(考え方)とコア(中心)施設

3校の跡地活用については、学校跡地となった空きスペースに、単に施設をいれるのではなく、若葉台地区のまちづくりを進める上で必要なコンセプト(考え方)をもとに、それにふさわしい施設をコア(中心)施設とすることを考えています。

	コンセプト	コアとなる施設	付帯施設（例）
旧若葉台東小学校	「教育・福祉」 「安全・安心」	○校舎・体育館・グラウンド 横浜市立特別支援学校	○校舎 ・コミュニティハウス ・市民図書室 （民具保管展示） ・地域防災防災拠点 ・福祉ボランティア拠点 ○体育館・グラウンド ・地域防災拠点・学校開放
旧若葉台西小学校	「教育・文化」「子ども」 「高齢者」 の分野における地域課題を踏まえ地域に貢献する事業を展開しながら、今後の若葉台地区の魅力を高めることができる民間事業者及び事業提案を公募	○公募事業（*注参照）で決定 ＜例＞ 民間病院・私立学校	・学習情報館 ・音楽ホール（多目的ホール） ・多目的利用研修室 ・子ども支援センター（児童館）、集いの場 ・高齢者向け福祉保健サービス施設（憩いの場、喫茶室、交流の場等） ・ホテルの舞う里（天使のいずみエリアの存続）
旧若葉台西中学校	「スポーツ・文化」	○校舎 文化・芸術の分野における市民活動の拠点 ＜暫定利用＞ 横浜開港 150 周年記念イベント関連事業での利用 ○体育館・グラウンド 総合型地域スポーツクラブ	・地域防災拠点

（*注）公募事業

用途廃止となった公共施設を有効に活用するため、地域の要望や課題を踏まえた上で公募条件を付し、民間事業者の提案を募集するもので、施設については、民間事業者への売却または有償貸付を行う。

各施設に必要な機能

前述のコンセプト（考え方）とコア（中心）施設を踏まえ、地域として各施設に必要と考える機能や留意すべき点は次のとおりです。

【旧若葉台東小学校】

- ・横浜市立特別支援学校をコア施設とし、地域の教育・福祉の活動拠点として位置付ける。
- ・既存のコミュニティハウスを存続させる。加えて「地域活動施設」として、地域が自主的に活動する場を確保する。
- ・地域防災拠点を存続させるとともに、体育館・グラウンドについて、学校開放として地域利用に供する。

【旧若葉台西小学校】

- ・公募事業については、地域が必要とするサービス需要や課題を十分踏まえた提案を行うことを条件として実施する。

【旧若葉台西中学校】

- ・地域防災拠点を若葉台西小から移転する。
- ・横浜開港 150 周年記念イベントに関連した暫定利用については、地域の意見を踏まえ、利用ルールを定める。

おわりに

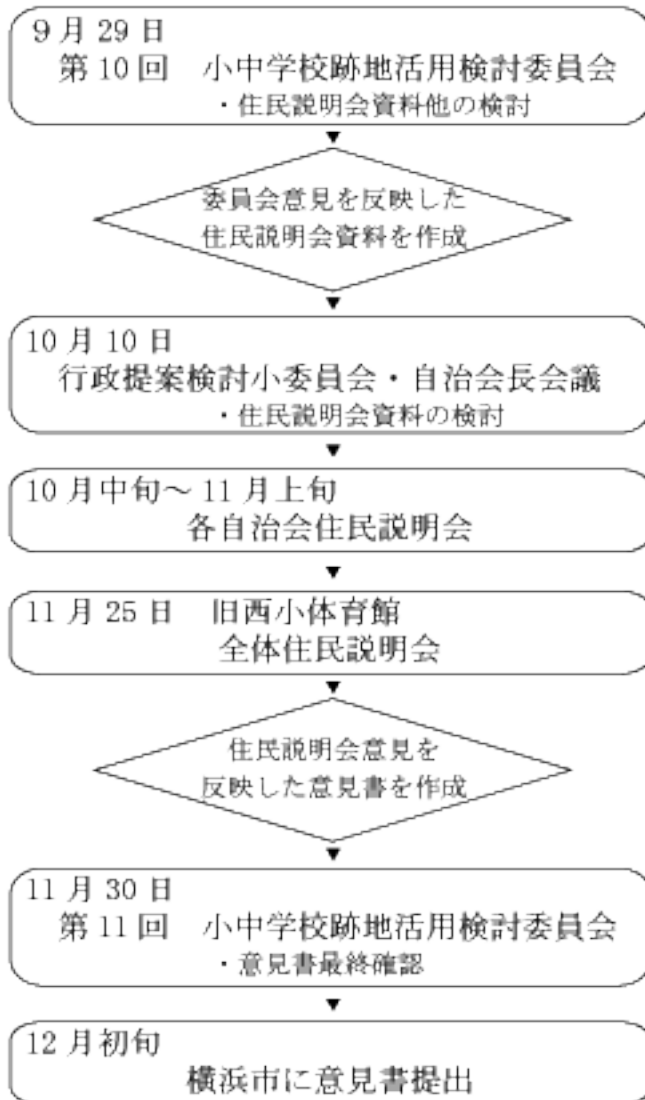
検討委員会としては、住民説明会等での皆さんの意見を踏まえ、若葉台地区のまちづくりにふさわしい跡地活用について最終的な検討・調整を行い、12月初旬を目標に横浜市へ意見書を提出する予定です。

11月中旬までに地域での住民説明会をきめこまかく開催し、その結果を踏まえて、横浜市に意見書を提出します

今後は、検討委員会が取りまとめた意見書「素案」をもとに、各自治会単位および連合自治会全体での住民説明会を開催します。

そして、そこでの意見を踏まえて、検討委員会としての意見書を作成し、12月初旬までに横浜市に提出する予定です。

■今後の進め方



■各自治会住民説明会日程

自治会	実施日時	会場
第一	10月20日(土) 10:00	旧東小体育館
東	10月20日(土) 10:00	旧東小体育館
二丁目南	10月20日(土) 10:00	旧東小体育館
中央	10月21日(日) 10:00	しらかし集会所
西	10月27日(土) 10:00	やまもも集会所
あかね	11月3日(土) 18:30	すだち集会所
もみじ	11月3日(土) 19:00	あけぼの集会所
とちのき	11月10日(土) 10:00	とちのき集会所
北	11月11日(日) 10:00	けやき集会所
ゆりのき	11月11日(日) 13:30	ゆりのき集会所

■本検討委員会の経過は旭区役所ホームページでもご覧いただけます。

旭区役所ホームページ (<http://www.city.yokohama.jp/me/asahi/>) から
→【まちづくり】 →【若葉台地区小中学校跡地の活用・検討】 とお進みください。

■本検討委員会へのご意見は、ファクスもしくはEメールで、下記事務局までお寄せください。

【若葉台地区小中学校跡地活用検討委員会事務局】
旭区役所区政推進課企画調整係
ファクス：951-3401
Eメール：as-kikaku@city.yokohama.jp
電話：954-6027

次回委員会の予定

日時：11月30日(金)19:30～
場所：若葉台中学校Eホール
議題：意見書最終確認、他